

# 「小国支援学校発！フロアホッケーのススメ」

～フロアホッケーをととした取組の紹介～

## 1 はじめに

本校では「児童生徒がもっと活躍できる場を！」ということで、高等部の生徒を中心に「部活動」と「総合的な学習の時間」の中で、フロアホッケーに取り組み3年目を迎えています。この間、生徒たちは「大きく成長」し、教師は生徒から「大きな活力」を与えてもらっています。



## 2 フロアホッケーとは

フロアホッケーは知的障がいのある人たちの社会参加を支援する活動（スペシャルオリンピックス：以下「SO」）として始められたスポーツの中で最も歴史のある競技です。特徴として、①他の球技に比べて技術やルールが簡単である。②試合中に全員が必ず出場できる。③地域の継続した社会体育として取り組むことができる。等が挙げられます。現在、地域大会※1・九州大会※2・全国大会、SO等、障がい、性別、年齢にかかわらず「夢や希望」を持って楽しめるユニバーサルスポーツとして全国に広がっています。

## 3 実践活動

### （1）部活動の取組



地域の体験会には、これまでのにべ250名の参加がありました。

活動は、月・水の週2回（15：00～16：00）高等部9名、小学部1名の計10名で、基礎～応用練習とゲームを主とした練習を行っています。これまで、小国高校のホッケー部や、熊本のSOチーム等に練習試合で胸を借りたこともあります。この取り組みが実り、6月に行われた九州大会で二年連続優勝を成し遂げました。さらに9月には、山形で開催された「第7回全日本フロアホッケー大会」に初めて出場し、一般の部「ディビジョンC」で3位という成績を残すことができました。県内の多くの方々からの暖かいご支援とご協力をたくさん頂いたおかげだと感謝しています。

### （2）「総合的な学習の時間」の取組

フロアホッケーの教育的効果が高いことから、問題解決能力の涵養や主体性、積極性を身に付けさせるため、本校の高等部の「総合的な学習の時間」に取り入れています。授業では、競技力や体力の向上だけにとどまらず、キャリア教育の視点を踏襲した課題の設定や内容の工夫、改善も行っています。また、生徒の特性に合った新たなゲームを開発したり、地域及び県内への普及を目指し「地域体験会」や「小国カップ（競技大会）」等の企画、運営を行ったりしています。この取り組みを通し、学び方、考え方、社会性等をさらに身に付け成長してくれることを願っています。今後も、児童生徒の自立や自己実現等につながるよう学習を続けていきます。

### （3）活動の成果

顕著な成果としては、日々の生活に目標を持って生き生きと学校生活を送るようになったこと、家庭や施設、地域の方々からも「挨拶・返事・態度が良くなった」と競技以外の面でもお褒めの言葉を頂くことが増えてきました。また、「生徒がもっと活躍できる場を！」ということで始まった「フロアホッケー」でしたが、生徒だけにとどまらず、全職員にも多くの刺激を与えています。今後の学校活性化の起爆剤の一つとして期待できるフロアホッケーは、これまでの授業とはひと味違ったかわりを児童生徒と持つことができ、とても貴重な活動となっています。



## 4 これから

本校は「あかるく・なかよく・たくましく」を目指す児童生徒像に、「果敢な挑戦」を目指す教師像にそれぞれ掲げて教育活動を進めています。これまでの3年間の取り組みや児童生徒の成長の様子を見ると、フロアホッケーは大変効果が高いものであると感じています。今後さらに、本校生徒の学校生活での生き生きとした表情やフロアホッケーで頑張っている姿を、県内や全国に発信し続けていきたいと思っています。

そして、近い将来、この取組が全国の特別支援学校に広がり、全ての児童生徒たちが「夢や希望」を胸に「やりがい」や「生きがい」を実感して欲しいと願っています。みなさんも小国支援学校の児童生徒たちと共に「夢や希望」を産み出すフロアホッケーを始めましょう！

（参考HP）

小国支援学校HP：<http://sakura1.higo.ed.jp/sh/oguni-s/>

フロアホッケー連盟HP：<http://w2.avis.ne.jp/~fhjapan/>

※1：今年度の「小国カップ」は11/3に開催されます。 ※2：毎年6月に熊本で九州大会が開催されています。